

初心忘るべからず



一般財団法人 日本塗料検査協会
理事長 宮川 豊章

平成24年の初春。明けましておめでとうございます。

今年辰年。龍の年です。昨年、我が国は東北地方太平洋沖地震に起因する東日本大震災という、大災厄の年でした。今年はその大災厄からの立ち直りの年、昇竜の年であって欲しい、と願うとともに、私はわが国の本当の力を信じています。

ご存知のように、わが日本塗料検査協会は昨年11月1日から一般財団法人に移行しました。日本塗料検査協会にとっては、今年一般財団法人として初めての新年なのです。一般財団法人として次の発展を目指すべき年であると言えましょう。たまたま私は一般財団法人の初代の理事長というめぐり合わせになりました。この挨拶をさせていただいている日塗検ニュースは、装いも新たに、一般財団法人として初めての日塗検ニュースです。

このような、初、初尽くめの中、我々も初心を忘れず日本の塗料検査のための活動をする予定です。能の世阿弥の著作とされる「花鏡」の結びには、“初心忘るべからず”の言葉があります。この言葉にはいろいろな意味合いが付け加えられているようですが、日本塗料検査協会が形を改めたにしてもその心を忘れてはならないでしょう。

従来財団法人であったときの寄付行為の目的と一般財団法人となった後の定款の目的は同一です。これに対し事業については、旧の第一項および最終項と新のそれらとは同一ですが、2項目増えています。これらは、認証認定事業に触れるなど時代の変化に対応して現在の事業を網羅するとともに、一般財団

法人への移行に伴う表現上の若干の違いがあるためです。これまでに行ってきた全ての事業を承継するのであって、その基本理念は同一と言って良いでしょう。

日本塗料検査協会は、わが国で唯一の塗料検査に関する第三者機関です。その使命には極めて重いものがあります。しかも、仕様規定から性能規定への移行の中ではその役割にはますます重要性が高まっているのです。性能を確認することが種々の計画・設計・施工・維持管理行為の基本となるからで、確認するためには本来第三者機関での検査が必須と言えましょう。

私が専門とする土木工学においても、鋼構造物を初めとして塗料は必須の材料です。私の分野であるコンクリート構造物にあっても、種々の形、新設あるいは既設を問わず塗料が用いられつつあります。コンクリートは本来、丈夫で美しく長持ちする材料です。しかしいくらコンクリートといえど、その性能には限界があります。そのような場合、塗料を用いることによって、構造系としてさらに新たな性能の展開を期待しているのです。

そのような時に一般財団法人となり、市民社会に豊かなシナリオを提供するために、新たな展開を意図しています。各位のこれまでに増してのご指導ご鞭撻ご協力をお願いして、年頭の挨拶とさせていただきます。